

文教厚生常任委員会

小中一貫教育特区を利用 (熊本県富合町)

富合町は、熊本市の南に隣接する人口約8000人の町です。

町内に、富合小学校と富合中学校があり、以前から小中連携に取り組まれています。

指導体制、指導方法の違いにより十分な連携が図られていなかったことから、平成15年11月に「富合町小中一貫教育特区」の認定を受け、平成16年4月1日から小中一貫教育に取り組まれています。

小学校6年間、中学校3年間という「6・3制」の教育課程を見直し、小学校1年から小学校4年を「前期」、小学校5年から中学校1年を「中期」、中学校2年から中学校3年を「後期」とする「4・3・2制」に教育課程を再編しています。

特に、国語・算数・数・英語の学力向上を図るため、授業時数の重点的配分が行われています。小中一貫教育の取り組みは、まだ段階的ではあるが、児童・生徒の学習意欲が高まってきているとのことであります。



富合町役場で研修する文教厚生委員

建設経済常任委員会

就農者の参入促進に特区を利用 (熊本県菊池市)

菊池市は、平成17年3月22日、菊池市・菊池郡七城町・泗水町及び旭志村が合併し、新「菊池市」となり、人口約5万3000人の市です。

基幹産業は農林業ですが、農業従事者の高齢化等により就農人口が減少し、耕作放棄地が増加傾向にあるなか、市外からの就農希望者は増加傾向にあるが農地法による農地取得後の50アール以下の面積要件が資金面・技術面、農地選定において支障をきたしたことから下限面積要件を20アールとする「菊池いきいき農業特区」を申請し、平成18年6月に指定を受けております。

現在までに新規就農者は4人で、経営規模も20アールから40アールで、水稲・麦・野菜などを組み合わせた複合経営が行われています。また、希望者が1人あり、農地取得の手続き中とのことであります。

特区参入者に対する支援体制づくりの取り組みとして、定期的に「新規就農支援セミナー」を開催されています。



菊池市役所で研修する建設経済委員